

ごとう通信

第 268 号

令和 5 年 4 月 1 日

桜の季節がどんどん前倒しされていきますね。僕自身は桜といえは4月の頭という感覚がありますが、若い人たちだと3月後半のイメージを持っているかもしれませんね。

桜って本当にすごいなあと思うのは、開花するのは一週間ほど、それでこれだけの人を魅了するのですから。そして皆さん、桜の花とは何らかの



思い出を持っていきます。僕自身も2つ思い出があります。一つは、大学入学で広島から上京した日（昭和60年）。

学生寮に入寮した日に先輩たちが桜の下で花見（宴会）をやっている、「ああ、これが大学生活かあ」と思いました。

もう一つは、大学を卒業して歯科医師国家試験が終わった日、同級生たちと靖国神社で花見を兼ねた打ち上げをしたこと。達成感がものすごく桜を見るだけで涙が出てきそうになったのを覚えています。

いずれの思い出も4月。やっぱり桜は4月に咲いてほしいなあ。

さて、コロナも新しい局面を迎え、講演会や講義なども少しずつリアル開催が始まりました。先月は目黒区、豊島区と行ってきました。行くだけでも特別感ありますねえ。オンラインだと自宅の自室に一人座ってしゃべるので、何か盛り上がりには欠けません。どこの講演会で話してもこち

らは自宅だし。残念ながらまだ地方からお声がかかりません。やっぱり現地に行つて、美味しい食べ物を食べるのが地方講演の醍醐味です。早く地方からお声がかかってほしいです。

才能を開花させる

これはまさに本職の話です。病院で「口からはもう食べられませんが」と言われたような方たちをもう一度評価し、食べていただけるように奔走するのが僕の仕事です。そして実際、口から食べられるようになった方は多くいます。逆に言うと、食べられる能力がその方にはあったのです。

先日、ある面白い文献を読みました。幼稚園から小学5年生までの生